

港地域の“ご近所福祉”を切り拓く  
ホツとする つながる・ささえあう「集まる居場所」をめざして

## 検 証 報 告 書



焼津福祉文化共創研究会

令和元年度 港地域の“ご近所福祉”を切り拓く  
ホッとつながる・ささえあう「集まる居場所」をめざして 検証報告書

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ 目 次 ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

はじめに 港地域の「集まる居場所」の原点を探る .....P. 2

第1章 港地域の団体・グループ把握のプロセス

- 1 3年間の「港地域ささえあい講座」からの提案
- 2 「焼津福祉文化共創研究会」の誕生
- 3 「集める居場所」が叫ばれている今、「集まる居場所」とは
- 4 「港地域の集まる居場所」の把握

第2章 「港地域の団体・グループ」を紹介します .....P. 6

- 1 55の団体・グループから協力をいただきました（一覧表参照）
- 2 団体・グループのシートの見方
- 3 「港地域の団体・グループ」を紹介します

第3章 「港地域の55の団体・グループ」把握から見えたもの .....P. 58

- 1 聞き取りシートデータの分析と考察
- 2 「研究会」議論から・・・これからの地域活動への提言

第4章 資料編 .....P. 62

- 1 活動経過報告
- 2 2019年度活動計画（報告書作成企画書）及び2020年度活動計画（案）
- 3 「焼津福祉文化共創研究会」規約及び会員名簿
- 4 「焼津福祉文化共創研究会通信」

「若者発 ご近所福祉かるた」誕生の由来

焼津福祉文化共創研究会事務局 〒425-0044 焼津市石津向町 15-17 デイサービス百の木石津内 Tel. 054-623-3665 Fax. 054-656-3731
---

●この事業は、2019年度「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団事業」及び「赤い羽根共同募金地域福祉活動促進事業」の助成を受けて実施しました。

## 港地域の「集まる居場所」の原点を探る

「公助に頼ることなく、共助・近助の地域の再構築」の地域課題を、住民主体で学び合うと、平成28年度から平成30年度の3年間「港地域ささえあい講座」（港第14・23自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講しました。

この講座の学び合いから、さらに浮き彫りとなった地域課題の改善・解決に向けて、講座の運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民(14名)により、2019年4月に「志縁団体」として「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生しました。

これからのコミュニティづくりに「地縁団体」（自治会・町内会）を基盤として、いかに「志縁団体」（使命感をもって地域活動に取り組む）が「協働」で地域づくりに参画出来るかが今日求められています。本会では、初年度の活動を、尊いこれまでの地域総合型学習から、「集まる居場所の検証」を取り上げることにしました。

過去には「居場所」という特化した福祉言葉などはなく、人々は、地域社会の中で自由に集まり、地域全体のコミュニケーション力で、お互いに日常的にささえあうことを当たり前のこととして生活を営んできました。しかし、今日、地域社会では、家庭・家族の弱体化・希薄化、個人志向傾向、子育てに不安をもつ世代や地域社会になかなか溶け込めない世代等の浮上、中高年の閉じこもり社会等、いろいろと社会問題に発展しているようにも伺えます。今こそ、世代を超えた地域参加を促し、地域の自立化をめざした地域ぐるみの支援が必要となってきました。多様な福祉ニーズが浮き彫りになり、その問題の改善解決に向けて、今日、真剣に「意図的な居場所事業」として取り組まれる地域社会に一変しつつあるようにも感じます。こうした地域社会の動きに対して改めて「真の居場所とは何か」を明らかにしようとしています。

「居場所」と言えども、約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ領域（既存の各種団体・グループ）はどのくらいあるかを、本会会員自ら把握する活動として期間を定めて取り組みました。

そして、さらなる把握に努め、管内関係団体や住民の皆様有機會あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体・グループの様々な取り組みを地域社会が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができるように働きかけていこうとする試みも本事業の根底にあります。

また、こうした活動をさらに発展させて、住民主体の新たな活動団体・グループの誕生を期待しています。身近な地域において取り組まれている様々な居場所的機能の存在を「見える化」し、引き続き、継続的な取組みを基に課題解決・改善に向けて取り組んでまいりたいと考えています。

このたびの取り組みが、世代を超えた「地域ぐるみ居場所」の原点を探り、積極的に仲間づくりをし、「ささえあう港地域づくり」を働きかけることが出来れば幸いです。

本事業は、55の団体・グループの皆様方のご協力のもとにまとめることが出来ました。

活動にあたり、「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」によるご支援をいただくとともに、尊い市民の募金による「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」により実施することができました。

ここに、謹んでお礼申し上げます。

令和2年 3月5日

焼津福祉文化共創研究会 会員一同

# 第1章 港地域の団体・グループ把握のプロセス

## 1 3年間の「港地域ささえあい講座」からの提案

「港地域ささえあい講座」を初めて開講する当時、「なぜ、港地域ささえあい講座なのか？」  
「なぜ、この講座を立ち上げようとしたのか？」等、よく周囲から問われました。

平成28年度から平成30年度まで、3年間取り組んできました「港地域ささえあい講座」  
の原点は何か、はっきりと地域住民に理解していただくように心掛けてきました。

この講座を通じて、一貫して強調してきましたのは「プロセス重視」です。住民主体に取り  
組み、「地域の福祉問題」を身近に学び合う学習です。そして、動員型研修会ではなく、福祉  
に関心を持つ地域住民が出来るだけ多く自発的に参加し、学び合う場が創り出せるように願  
っていました。もう一つ、本講座を立ち上げようとしたきっかけは、介護保険制度改正に伴  
う、社会の大きな課題提起を私たち地域住民に向けられていたことです。

介護保険制度によって、これまで長いこと培われていた「共助」は、いつの間にか、私たち  
の身近な地域社会から見失っているようにも感じていたからです。

「公助」「専門性」だけで、私たちの生活は保障される、極端に言えば、人々の意識を大き  
く転換している、そんな時代を迎えた今、「市民性」を改めて認識することに気が付くことを  
どこで学ぶかという視点です。なんと、公助の視点から、「地域支援」「生活支援」の言葉  
が、私たち市民にむけられていることに何時気づくかです。制度の限界から、今再び、地域  
でのささえあいの仕組みを考え、実践することから、「公助」の限界を、私たち地域社会の主  
体性から「お互い様」「ささえあいの精神」を復活したいと感じた原点がここにあります。

平成28年度最初の講座企画書を改めて見ると、講座の開催趣旨を次のように述べています。

『今日、私たちの周辺に、これまで聞いたことのない「長寿者の孤立・孤独」「無縁社会」「有  
縁社会」「老人漂流社会」等が飛び交っています。3.11 東日本大震災は、私たちに、あらため  
て、「地域の絆」等数々の教訓を投げかけています。懐かしい、あの頃、何キロも離れた家も、  
昔は“ご近所”でした。その“ご近所”同士が、お互いにささえあっていた地域。この講座では、  
関係機関・団体等との協働により、大きな社会の動き（変化）に向けて、これからの地域づく  
りは、「自助」「共助」と「公助」の協働により、地域住民一人ひとりが主体的に地域の担い手  
としての意識啓発をして新たな地域づくりをめざします。改めて、港地域に住んで〇年、港地  
域を楽しく語り合いながら、理論と実践を「融合」し、世代や領域を超えて、知恵（アイデア）  
を出し合います。「福祉問題」を地域づくりの主要な位置づけとして、普段の暮らしの中でさ  
さえあう地域を構築することにより、災害にも強い地域の基盤を確立する努力をしましょう。』

### 【活動の展開とプロセス】



## 2 「焼津福祉文化共創研究会」の誕生

### 地縁と志縁の協働による福祉コミュニティ再構築に向けた始動

市民主体（10代から70代、25名の実行委員会構成）の運営により、3年間継続的に開催してきました「焼津港地域ささえあい講座」（5,000世帯の2つの自治会による中学校区における開催）は、講座の運営資金を、「赤い羽根共同募金助成事業」「県コミュニティ活動集団支援助成事業」「焼津市民公益活動事業」等、様々な領域からご支援いただき、毎年度延べ230名余の住民の参加により開催できました。3年間の事業を総括した「港地域ささえあい講座報告書」には、「制度」や「公助」だけに依存することなく、住民自らが地域を知り、地域の課題に向けて、「協働」により「自助」「共助」でいかに地域参画出来るかを提案する意見が強く浮き彫りにされました。今回の講座の成果として、

- (1) 管内13の介護事業所が連携し、本講座事業を積極的に支援した結果、それぞれの介護事業所間の結束が深まり、平成31年度に「管内福祉施設連絡会」が組織化されました。
- (2) 学校教育関係者・生徒が講座の実行委員として参画し、学校教育に福祉教育を取り入れることの意義が深まり、福祉施設や地域包括支援センターとの連携による、具体的な展開の報告がありました。

こうした、講座の成果を確認していく過程で、講座を企画し、運営に関わった25名の実行委員が講座終了後、今後、地域でこれまでのノウハウを活かすことを議論した結果、真に地域に向き合い地域問題をさらに掘り下げ「共助の世界」「近助の世界」を再構築していく、理論と実践の集団づくりの提案があり、このたび「焼津福祉文化共創研究会」を立ち上げることになりました。そして、講座の成果物である「港地域ささえあい講座報告書」を今一度、手引き書として検証しながら、議論を深め合っていくことを確認しました。

「地縁組織（自治会・町内会/お互い様）」の諸活動に、「志縁組織（目的・使命感による活動集団）」として、本研究会が「協働」で取り組む地域環境の開拓にも努力していくことも議論しています。また、尊いこれまでの実践活動を、焼津市全体に拡げる目的で「焼津市ボランティア連絡協議会」に加盟し、地域活動の活性化に努力していくことも申し合わせをしました。

## 3 「集める居場所」が叫ばれている今、「集まる居場所」とは

今日、各地で「居場所」立ち上げの話題が報じられています。とかく、高齢者を対象に、ボランティア活動として、一部の地域住民の特定の活動、利用者がボランティアにお世話になる上から目線での活動も少なからず存在しています。いろいろな人がいて当たり前の地域社会の中で、高齢者や子ども、そして障害児・者、生活困窮者やその世帯等、多様な福祉ニーズを抱えている方々全てが対等な関係をもつことが大切です。

これまで、地域全体が「居場所的機能」をもち、ご近所付き合いも自然発生的な地域環境にありましたが、今日、地域は少しずつその機能を失いつつあります。そして、生み育てる機能、福祉的機能、保護的機能、教育的機能、経済的機能、情緒安定的機能等、6つの「家庭・家族機能」も弱体化し、今改めて、「地域を家庭化」することを真剣に考え実践していく時代を迎えています。本会が、初年度の活動として取り組もうとした「居場所論議」は、ここにあり、3年間の講座開講期間中に実行委員会運営と共に、講座を通して、地域課題解決に向けて展開できるかを議論しています。

しかし、本来、講座開講の目的は、より多くの地域住民に「福祉問題」に関心を持っていただく「啓発学習」にあり、基礎的知識を学ぶことが出発点であることから、講座運営に関わる実行委員自体のステップアップ研修として、実行委員会の中に、講座で浮き彫りになった「生活支援課題」を研修テーマに議論を深め合う場として「生活支援研究会」を設置した経緯があります。「生活支援研究会」（全8回）を立ち上げて、港地域にこれから何が求められるかを研究協議した「研修テーマ」は、

- 第1回 生活支援とは何か、当面の展開方法について確認
- 第2回 居場所の立ち上げ 管内の地域特性による取り組みのプロセスを学ぶ
- 第3回 買い物支援① 事例から学ぶ
- 第4回 買い物支援② 事例から学ぶ
- 第5回 移動支援① 事例から学ぶ
- 第6回 移動支援② 事例から学ぶ
- 第7回 総括① 「ワークショップ」成果物の検証
- 第8回 総括② 「ワークショップ」成果物の検証と港地域の実践活動につなぐ

の全8回の「生活支援研究会」から、浮かび上がった「港地域力」の検証結果は、「地域を知ること」「居場所・買い物・移動の3つの地域課題解決の具体化を図ること」「福祉の動きを学び、関心を持つこと」「社会資源、地域資源（福祉施設、人材等）の有効活用すること」「福祉コミュニティ組織化を図ること」「協働・つなぐ実践すること」「語れる地域環境に努めること」「個別支援を具体化すること」「無償から有償の社会の到来を認識すること」「家庭、家族の協力を呼びかけること」「助けられ上手の社会構築をめざすこと」等でした。

これまでのプロセスから、具体的な地域支援課題から「居場所」を本会の活動に取り上げました。ここで、実践的取り組みの事例から、論じられている「集まる居場所」と「集める居場所」の傾向を取り上げると、

キーワード	心境	場所	自発性	主役	人数	決まり	組織関係	相性	開催
集める居場所	建て前	公的	誘われ従う	関係者 <small>ボランティア</small>	大勢	あり	あり上下	無視	月1回程度
集まる居場所	本音	私的	自発的積極的	本人仲間	4-5名	なし自然的	なし対等	大切	ほぼ毎日

これからの地域づくりに、多様な福祉ニーズの改善・解決にむけて、真の居場所に向けて、どのような「居場所的機能」が求められるかを本会の活動テーマとしました。

## 4 「港地域の集まる居場所」の把握

これまで述べてきました「居場所論議」から、このたび本会が取り組みました「港地域の集まる居場所把握」活動は、「港地域づくり推進会」（第14・23自治会の約5,000世帯をもって組織化）の管内で、「居場所」の原点である、地域や個々の人々のつながりの中で、今日まで、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に取り組みされている各種活動団体やサークル・グループ等が「普段の拠り処」として、日常的・主体的に、「居場所機能」を持つ領域はどのくらいあるのか、その現状を把握し、これからの地域づくりに活かすことを目的に掲げました。併せて、新たな課題解決に向けて、意図的に組織化され、「居場所」活動に取り組みされている現状を検証し、「港地域ぐるみの居場所」のこれからについて、住民主体に議論し合う地域社会づくりを提案するものです。

## 第2章 私たち「港地域の団体・グループ」を紹介します

### 1 55の団体・グループから協力をいただきました

頁	シートNo	団体・グループ名	自治会	活動区分	継続何年	会員数
9	1	パピヨン	23	健康・スポーツ	25年	12名
10	2	焼津福祉文化共創研究会	14・23	地域コミュニティ	1年	14名
11	3	いかずい北川原	14	地域福祉	2年	19名
12	4	石津ミニデイサービス	14	地域コミュニティ	22年	40名
13	5	祐心館ミニデイサービス	14	地域福祉	21年	34名
14	6	子育て広場ほっとポット港	14	地域福祉	14年	50名
15	7	ミニデイにこにこサロンはまゆう	23	地域福祉	22年	41名
16	8	下小田上公会堂サロン	23	地域福祉	3年	77名
17	9	北新田公会堂サロン	23	地域福祉	3年	54名
18	10	田尻北公会堂サロン	23	地域福祉	3年	90名
19	11	うちの実家浜ちゃん家	23	地域福祉	8年	23名
20	12	会食サービスあじさいの会 港地区	14・23	地域福祉	36年	39名
21	13	石津中央港会(グランドゴルフ)	14	健康スポーツ	20年	31名
22	14	水天宮パノラマグランドゴルフクラブ	14	健康スポーツ	15年	45名
23	15	石津浜ラジオ体操会	14	健康スポーツ	27年	16名
24	16	天使の木の会	14	おしゃべり	5年	10名
25	17	下小田グランドゴルフクラブ	23	健康・スポーツ	13年	25名
26	18	田尻北浜グランドゴルフ親睦会	23	健康・スポーツ	20年	29名
27	19	港パワーズ(旧港倶楽部)	23	健康・スポーツ	30年	16名
28	20	なかよし会	14	健康・スポーツ	11年	5名
29	21	尺八・竹吹会	23	音楽	16年	7名
30	22	田尻北ゆりかもめの会	23	地域コミュニティ	4年	8名
31	23	みそづくりの会	23	趣味	18年	18名
32	24	さざなみ会(地域で子どもを育てる)	23	子育て	11年	16名
33	25	みなとつちサロン折り紙グループ	14	趣味	3年	3名
34	26	さわやかクラブ港支部(静友会)	23	地域福祉	15年	29名
35	27	さわやかクラブ港支部(若松会)	14	地域福祉	39年	39名
36	28	石津マートサロン	14	地域コミュニティ	10年	20名
37	29	ちよっくらよらっカフェ(認知症カフェ)	23	地域福祉	2年	20名
38	30	下小田中老会	23	地域コミュニティ	44年	24名
39	31	下小田防災機器管理者会	23	防災	11年	9名
40	32	港っ子サポータークラブ	14	子育て	2年	10名
41	33	栄田児童福祉会	23	その他	39年	19名
42	34	北新田中老会	23	地域コミュニティ	50年以上	50名
43	35	下小田下中年会	23	地域コミュニティ	50年以上	20名
44	36	静友会	23	高齢者	25年	29名
45	37	下小田ラジオ体操会	23	健康・スポーツ	38年	17名
46	38	エコクラフト同好会	14	趣味	1年	10名
47	39	第12町内会 新和会	14	地域コミュニティ	21年	9名
48	40	みなとつちサロン	14・23	地域福祉	4年	42名
49	41	第二町内会踊りの会	14	地域コミュニティ	20年	8名
50	42	石津岡青連会	14	地域コミュニティ	30年	24名
51	43	長寿会	23	高齢者	42年	50名
52	44	下小田食事会	23	地域福祉	5年	22名
52	45	下小田ミニデイサービス	23	地域福祉	11年	30名
53	46	親愛会	14	地域コミュニティ	40年以上	40名
53	47	庚申(こうしん)さん	23	地域コミュニティ	50年以上	8名
54	48	港第23インディアカクラブ	23	健康・スポーツ	34年	8名
54	49	紅才会	14	地域コミュニティ	65年	44名
55	50	遊快GA23	23	地域コミュニティ	21年	19名
55	51	笑会(わらうかい)	23	おしゃべり	1年	20名
56	52	石津フレンド(グランドゴルフ)	14	健康スポーツ	19年	11名
56	53	第二町内会祭典実行委員会	14	地域コミュニティ	30年	20名
57	54	新田バンド	14	音楽	27年	7名
57	55	北寿会(グランドゴルフクラブ)	23	健康・スポーツ	30年	30名

## 2 団体・グループのシートの見方

「私たちの団体・グループ紹介します」利用にあたり次の項目に留意して利用してください。

◇ここに紹介しました55の団体・グループは、本会会員が8月1日より12月28日までの約5か月間において、約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ領域（既存の各種団体・グループ）はどのくらいあるかを把握し、これからの地域づくりに活かす目的で、「次のページのシート」により、直接関係者を訪問し、またご了解のもとに作成した内容です。〔調査時点 令和元年8月30日〕

◇団体・グループによっては、シートの項目の中で、空白部分がありますが、本会が全て取りまとめることなく再確認・聞き取り訪問等を繰り返した範囲内で各団体・グループの事情を考慮してまとめました。細部、各団体・グループシートへの問い合わせは、「連絡先」または本会にお願いします。

◇各団体・グループシートの項目の組み立ては、次のとおりです。

### A 団体・グループ名

- ・港地域づくり推進会（港第14・23自治会）管内のどの自治会領域かを表明してあります。
- ・団体・グループ名は、訪問調査時、または登録している名称を表明しています。

### B 活動区分

- ・本会が組み立てた、次の「22の区分」を選択（複数回答可能）していただいた内容です。  
(1)趣味 (2)健康 (3)地域コミュニティ (4)創作(芸術) (5)環境 (6)IT (7)高齢者  
(8)障がい者 (9)子育て (10)多文化共生 (11)地域福祉 (12)教育 (13)防災 (14)収集  
(15)農耕園芸 (16)歴史 (17)文化 (18)レクリエーション (19)音楽 (20)舞踊  
(21)おしゃべり (22)その他

### C 主な活動内容

- ・実際に取り組まれている活動内容を聞き取り等によりまとめています。
- ・新たな会員大いに歓迎するかを「有・・・大いに歓迎する」「無」で回答していただきました。

D 発足の目的（理念）・・・各団体・グループ誕生の経緯（思い）をまとめています。

### E 活動要目

- (1)活動時間・・・各毎週・毎月・年の開催・実施回数の回答と時間帯です。
- (2)活動場所・・・主な活動会場名を表明しています。
- (3)会場使用料・・・活動場所の会場使用料を支払いしているかの回答です。
- (4)会費・・・各団体・グループの活動運営に関わる会費徴収の有無の回答です。
- (5)運営費・・・会費以外に、各種補助金・助成金等を受けているかの回答です。

### F 発足年月

明確に回答のあった団体・グループについては、調査時点をもって継続年数を明記しました。  
具体的な回答のない団体・グループについては、聞き取りの範囲内で表明しました。

### G 会員数

活動全てに参画している人数をもって表明しています。

ここでは、(1)男女別 (2)年代別 (3)区域（管内外）の3つの項目でまとめています。

### H 連絡先

- ・各団体・グループのことについて、連絡・問い合わせできる関係者・団体先を表明しています。
- ・各団体・グループは、本誌の取り扱いを十分気を付けて下さい。



## 私たちの団体・グループの活動を紹介します

団体グループ名	(1) 港第14自治会管内 (2) 港第23自治会管内
活動区分	(1) 趣味 (2) 健康 (3) 地域コミュニティ (4) 創作(芸術) (5) 環境 (6) IT (7) 高齢者 (8) 障がい者 (9) 子育て (10) 多文化共生 (11) 地域福祉 (12) 教育 (13) 防災 (14) 収集 (15) 農耕園芸 (16) 歴史 (17) 文化 (18) レクリエーション (19) 音楽 (20) 舞踊 (21) おしゃべり (22) その他
主な活動内容 (実績)	※具体的な活動内容と住民へのメッセージを紹介 ※新たな会員大いに歓迎 (有 無) ※写真2枚挿入
発足の目的 (理念)	
活動要目	(1) 活動時間 (毎週 回 毎月 回 年 回) 午前 : ~ : 午後 : ~ : (2) 活動場所 (有 ) 無 (3) 会場使用料 (有 ) 無 (4) 会費 (有 無 ) 円 (5) 運営費 (有 無 )
発足年月	昭和 平成 令和 年 月 日 (継続 年) ※調査時点8月30日
会員数 (名)	(1) 男女別 ①男性 名 ②女性 名 (2) 年代別 ①10代 名 ②20代 名 ③30代 名 ④40代 名 ⑤50代 名 ⑥60代 名 ⑦70代 名 ⑧80代以上 名 (3) 区域 ①管内 名 ②管外 名
連絡先	〒000-0000 TEL FAX メール :

### 3 「港地域の団体・グループ」を紹介します

この活動に取り組むにあたり、本会では、第4章 資料編 『2 2019年度 焼津福祉文化共創研究会活動計画 -港地域の“ご近所福祉”を切り拓く 『集まる居場所』で地域ぐるみのささえあいを検証する』に基づき、定例研究会（原則 毎月第2土曜日 事務局内で開催）を開催し、議論を深めるとともに、関係団体等との連携を図りながら取り組んでまいりました。

また、県内の先進地域の行政担当者や地区実践者との意見交換を通じて、地域性を鑑みながら、私たちの地域では、どのような取組みが出来るかを検討してまいりました。

8月に入り、「調査シート」がほぼ固まり、会員相互の意思疎通も出来たところで、本会会員単独での実施には限界があるところから、自治会や地区民生委員児童委員協議会等の会合等にお伺いして、「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」と「焼津市共同募金地域福祉活動促進助成事業」により、約5,000世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内で、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処として、自由に、日常的・主体的に、「居場所的機能」を持つ領域はどのくらいあるか、地域で活動している既存の各種団体・グループの現状を把握し、管内住民に紹介し、趣味や特技を共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、さらに、新たな活動団体・グループの誕生を期待し「紹介集」（2月上旬発行）を作成すること等、趣旨説明をし、また、直接団体・グループ等にお伺いする場合には、協力依頼文書をもってお願いしました。

8月から聞き取り活動を開始し、5か月後の12月28日をもって最終的なまとめに移行しました。

シートNo	1	港第23自治会管内
団体グループ名	パピヨン	
活動区分	(2)健康・スポーツ、	
主な活動内容 (実績)	週1回インディアカの練習をしています。 県4回くらい、市4大会などに参加し、日頃の練習の成果をためています。 ●新たな会員大いに歓迎 (有)	
発足の目的 (理念)	インディアカを通して体を動かしスポーツを楽しみ仲間のつながりを大切に！！	
活動要目	(1)活動時間 毎週 1回 毎月 4回 年 48回 19:00 ~ 21:00 (2)活動場所 港中体育館 (3)会場使用料 (有) (4)会費 500円/月 (5)運営費(予算化)	
発足年月	平成6年1月 (継続 25年)	
会員数 ( 12名 )	(1)男女別 ①男性 7名 ②女性 5名 (2)年代別 ①10代 ②20代 ③30代 2名 ④40代 3名 ⑤50代 5名 ⑥60代 3名 ⑦70代 ⑧80代以上 (3)区域 ①管内 ②管外	
連絡先	池ヶ谷弘行 〒 425-0032 焼津市綱ヶ島 電話: 054-	

シートNo	2	港第14・23自治会管内
団体グループ名	<b>焼津福祉文化共創研究会</b>	
活動区分	(3)地域コミュニティ  (11)地域福祉  (22)その他(福祉コミュニティ)	
主な活動内容 (実績)	<p>1. 本会の活動基調 本会は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民と一緒に地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善に努力していきます。 「3つの活動基調」 (1)専門性と市民性の融合による活動 (2)世代を超えた公開型活動 (3)地域の課題解決に向けた活動</p> <p>2. 活動内容 2019年4月発足した本会は、「志縁団体」として、「地縁団体」や各種団体等との協働活動をめざし、3つの活動基調をあげています。 (1)情報交換活動 (2)啓発・広報・調査研究活動 (3)人的交流活動 (4)研究会・講演会・セミナー等の開催 (5)その他、この会の目的を達成するために必要な活動。</p> <p>3. 定例会は、原則第2土曜日19:00～21:00 地域密着型・施設の社会化をめざす、管内介護事業所を会場(事務局)として、理論と実績を融合し合う学びの環境を創ります。</p> <p>4. 2019年度は、「赤い羽根共同募金地域福祉促進事業」「静岡県コミュニティづくり推進協議会コミュニティ活動集団助成事業」による「地域の寄り合い処の検証事業」に取り組みます。</p>	
	 	
	●新たな会員大いに歓迎 (有)	
発足の目的 (理念)	<p>1. 誕生の経緯 市民主体で平成28年度から平成30年度まで、3年間取り組んだ「港地域ささえあい講座」(港第14・23自治会で組織されている(港地域づくり推進会主催)の執行委員を中心に、本活動に賛同した市民を基に誕生しました。介護保険制度の導入により、社会が一変したようにも感じる今日、今一度「近助」「共助」を取り戻すために、それぞれの地域の課題解決に向けて、市民一人一人が主体となり、さまざまな地域活動に取り組む「志縁組織」を立ち上げ、お互いに「協働」による地域づくりをめざしています。</p>	
活動要目	<p>(1)活動時間 毎週 回 毎月 1回 年 12回 その他随時 19:00～21:00</p> <p>(2)活動場所 ディサービス百の木石津内 焼津福祉文化共創研究会事務局</p> <p>(3)会場使用料 (無)</p> <p>(4)会費 1,000円/年</p> <p>(5)運営費(予算化) 2019年度助成事業有</p>	
発足年月	平成31年4月 (継続 1年)	
会員数 (14名)	<p>(1)男女別 ①男性 8名 ②女性 6名</p> <p>(2)年代別 ①10代 ②20代 2名 ③30代 1名 ④40代 ⑤50代 4名 ⑥60代 2名 ⑦70代 5名 ⑧80代以上</p> <p>(3)区域 ①管内 13名 ②管外 1名</p>	
連絡先	<p style="text-align: center;">平田 厚</p> <p>〒 425-0044 焼津市石津向町15-17(ディサービス百の木石津内) 電話: 054-623-3665 FAX: 054-656-3731 メールアドレス: momonoki2018@office.tnc.ne.jp</p>	

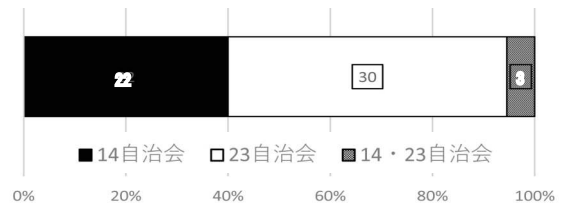
# 第3章「港地域の55の団体・グループ」訪問から見たもの

## 1 聞き取りシートのデータ分析と考察

今回、回答の協力をいただきました、55の団体・グループの聞き取りシートの次の項目から、データを分析・考察しました。

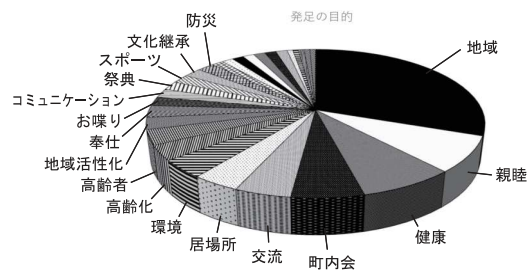
- (1) 自治会所属別
- (2) 発足の目的
- (3) 活動区分・・・取り組まれている活動領域を複数回答から分析・考察をしました。
- (4) 活動要目 ①活動時間（週・月・年単位） ②活動場所の有無 ③活動場所の使用料の有無  
④会費の有無 ⑤運営費の助成有無
- (5) 継続年数
- (6) 会員数 ①男女別 ②年齢別 ③区域

### (1) 自治会所属別

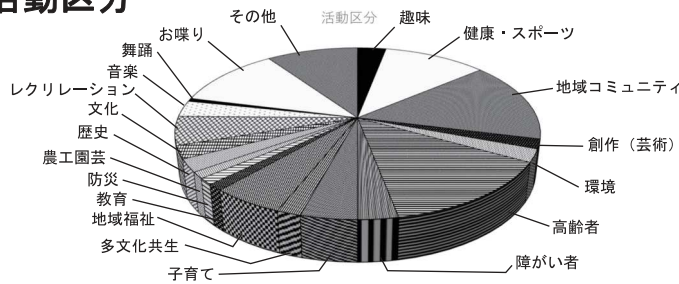


### (2) 発足の目的

目的の中の単語を分類しますと最も多くの団体が地域のためにということを挙げています。団体数は少ないのですが、その他に音楽、子育て、情報収集、応援、認知症、ボランティア、友愛、お祭り、ご近所、ささえあい、脳トレ、幼児等を挙げている団体もありました。



### (3) 活動区分

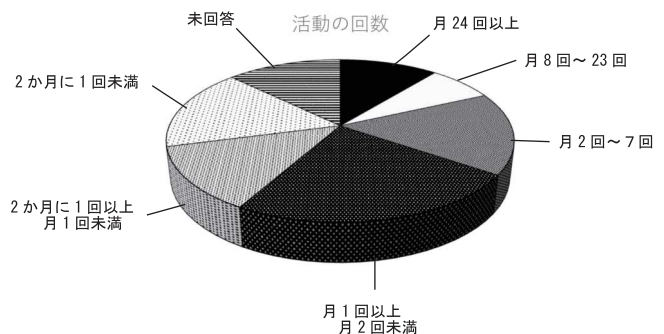


発足の目的、活動区分については各団体の複数回答がありますので、集計では団体数以上の数になります。

### (4) 活動要目

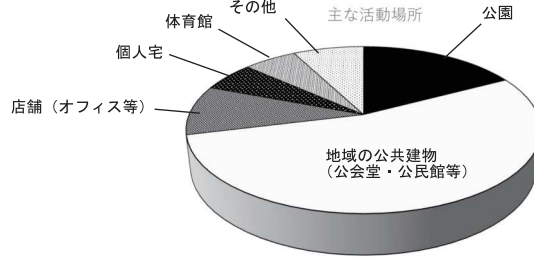
#### ①活動時間（週・月・年単位）

毎月何日の活動を実施しているかを集計したのですが、団体毎に活動時間はそれぞれ異なります。1回10分程度の活動時間（ラジオ体操がメインの団体）から1日を通して活動する団体（祭典をメインに活動する団体）がありますが、月に何回の活動になるかということまでまとめてあります。



## ②活動場所の有無

主な活動場所は公会堂、公民館、公園等の公共施設を利用しています。複数の活動場所の団体も多くみられます。



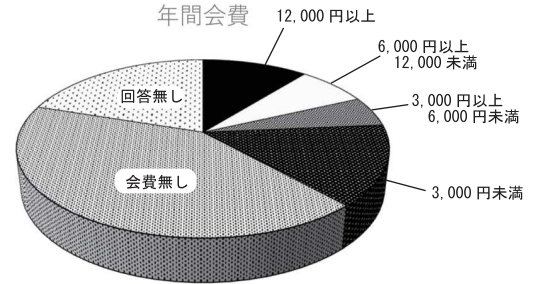
## ③活動場所の使用料の有無



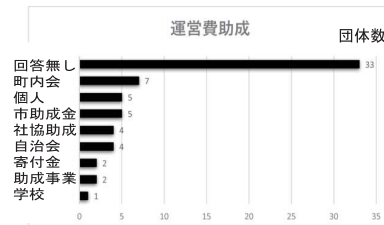
## ④会費の有無

年間の会費に算出しますと

12,000 円以上	1 1% (6 団体)
6,000 円以上 12,000 円未満	7 7% (4 団体)
3,000 円以上 6,000 円未満	5 5% (3 団体)
3,000 円未満	1 5% (8 団体)
会費無し	4 2% (23 団体)
回答無し	2 0% (11 団体)



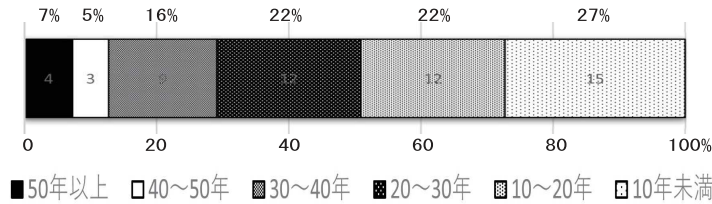
## ⑤運営費の助成有無



複数の助成金を利用している団体もありますので合計しても団体数と合致しません。回答のない団体が60%を占めています。

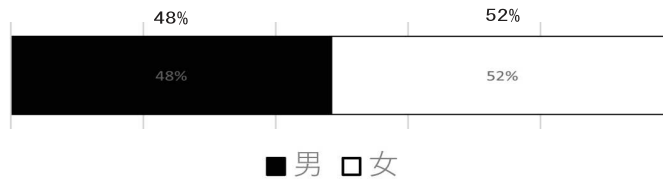
町内会助成金	1 3%
市助成金	9 9%
社協助成金	7 7%
自治会助成金	7 7%
寄付金	4 4%
助成事業	4 4%
学校	2 2%

## (5) 継続年数

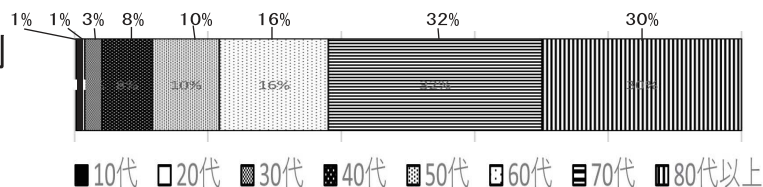


## (6) 会員数

### ①男女別



### ②年齢別



### ③区域



## 2 「研究会」論議から・・これからの地域活動への提言

4月結成以降、本会活動計画に基づき、原則、毎月第2土曜日に定例研究会を開催してきました。会員の結束もかたく、ほぼ毎回欠席なく、活動テーマについて議論を深めてまいりました。

この章では、今回の活動テーマ『港地域の“ご近所福祉”を切り拓く ホットする、つながる・ささえあう「集まる居場所」めざす』について、これからの地域づくりに向けた活動はいかにあるべきかを議論した主な意見をここにまとめ提言とします。

1. 団体・グループの運営のあり方に悩んでいる様子も伺える。  
こうした状況に、歩み寄り、一緒に考えていける相談支援機能（アドバイス機能）が地域社会に存在することが望ましい。
2. 地域社会の活性化に向けて、今回協力していただいた団体・グループが一堂に会して意見を交わす機会を計画することを本会の次の活動としたい。
3. すべてを「地縁団体（自治会・町内会）」に期待するだけでなく、「志縁団体」である団体・グループが地域社会に多く誕生し、「協働」による地域づくりが求められる。
4. 地域の先輩市民（高齢者）の方々が、地域社会に何を期待しているのか、もっと歩み寄った活動の必要性を感じる。
5. 支援ありきの地域社会づくりだけでなく、要支援対象の方々が地域社会に目を向けて、参加できる地域支援体制こそ、これから取り組むべき活動と感じた。
6. 地域社会をトータルにコーディネート出来る専門性と市民性の融合による仕組みづくりが必要である。そして、地域全体でトータルにコーディネート機能を高めることが求められている。具体的な役割として「生活支援コーディネーター」も各地で浮上しているが、あくまでも、蘇民主体が基本である。
7. 難しい福祉用語を使うことなく、地域住民にわかり易い言葉を創り出る作業こそ大切と感じる。一人一人が身近な福祉社会を感じ取り、自分のこととして、地域に参加する機運が高まってくるような地域環境を考えたい。今回取り組んだ「居場所」の定義を「本事業」取り組むに当たってわかりやすい表現にしていくことを再認識した。  
「居場所」・・・“行く場所”、時間がつぶせる、ホットする 情報交換ができる場所、拠り所等、今回の聞き取り調査で明らかにしていきながら「居場所とは何か」を検証し、議論する中で考察することも出来た。
8. いま、地域社会では、「傾聴ボランティア」なる領域が出来ている。  
今回の訪問聞き取り活動の心掛けとして、雑談の中から、本論に入ることが求められた。  
相手にシートの記入を求めると拒否される可能性あり、十分に時間をかけて聞き取りをしながら作業することも大切であった。関わっている人の人生が豊かになる学びにつながる。
9. 限られた調査項目範囲に限界を感じた。広く地域との「協働」作業を進めていく工夫が求められた。単年度で完結する事業に終わらせないで、さらに、「シート」の加筆・修正・追加作業を積み重ねて、継続的活動としていきたい。
10. 地域社会に、多様な団体・グループの存在を地域住民が認識する機会を提供し、改めて、地域社会の仕組みを理解できることを期待したい。既存の団体を把握することは、コミュニティ組織の原点を探る意味を有している。

11. 地域にデビューする年代層に、地域社会で貢献活動に参画出来ることを呼びかけていく活動でもあると認識した。
12. 今日、若い世代層は、地域社会そのものを充分知ろうしないか知らない現状にある。  
いかにして、地域活動に参加することが出来るかを、段階的に手ほどきをしていく教育的機能が求められている。過去には、地域環境の中で情報が伝わる「地域力」が存在していた。  
これからは、こうした、「地域力」の復活も課題となる時代と実感する。
13. 今回の活動で「Face to Face」の重要性を認識した。歩み寄る活動の意義は大きい。
14. 地域にどのような団体・グループがあり、地域住民のふれあう活動がどのように取り組まれているか、今回の活動により、身近な地域情報として提供することが出来る。
15. 尊い地域福祉の担い手として取り組まれている民生委員児童委員及び主任児童委員の皆さんは、地縁団体からの推薦により地域活動に取り組まれている。今回の活動は、地域情報の一つとして、活かされることを期待したい。今後、地区民生委員児童委員協議会との「連携」「協働」による地域づくり活動につながるように本会も努力していきたい。  
3年間の「港地域ささえあい講座」においても、振り返ってみると、連携のもとに成果を得たプロセスを検証出来た。
16. 社会教育領域における公民館機能は、今日、コミュニティ活動と共に、機能強化を図っている。  
「港地域づくり推進会」の事務局として、港第14自治会と第23自治会との調整機能等、幅広い分野で、地域づくりに取り組まれている。本会は、実践活動の領域において、社会教育と社会福祉の融合をさらに発展させて、協働の地域づくりに、今後とも努力していきたい。
17. 地域社会において、「協働」のことばを良く耳にする。  
果たして、真の意味合いは何だろうかと問い質す時期に来ている。  
問題を解決するための協働とは何か。「行政」「社会福祉協議会」等が発信している「市民」との協働について、こうした活動を通じて再確認したい。
18. “集める居場所”から“集まる居場所”とは何か、今回の活動を通して、人々が生きがいをもって生活する地域環境を整えることを今後に向けて努力していきたい。
19. 「専門性と市民性を融合」のもとに、3年間の講座から、管内の13の介護事業所が「管内福祉施設連絡会」を結成した。「介護の地域化」を基に、今後いかに協働による地域づくりができるか努力をしていきたい。今回の活動を共有して取り組めるように働きかけていきたい。
20. 助け合い活動を通じて、問題解決のための組織づくりやみんなで集まる居場所を検証して、制度につなげていく努力が求められる。また、制度で改善解決できない課題の取組み 地域の何が問題なのかを常に把握していく努力が必要と感じる。
21. あくまでも、「自助」「共助」による地域づくりが基本であるが、地域の問題解決のために、団体設立 運営基盤整備を推進していくためには助成支援等「公助」との協働が課題である。
22. 地域の福祉課題は、これまで、高齢者問題が特化している現状であるが、高齢者問題が全てではなく、あらゆる福祉ニーズへの対応や、全ての福祉ニーズを一体化で解決する地域ぐるみの仕組みづくりを具体化していきたい。
23. とかく、これまでの問題解決は「支援」重視傾向を基本に取り組まれている。  
全ての地域住民が、「自助」「共助」のもとに、「支援される人」の地域参加、地域の担い手である意識改革を高めていく地域づくりが求められる。
24. 学校教育に任せた「福祉教育」から「地域ぐるみの福祉教育」に発展させる [地域力] アップ。

## 第4章 資料編

### 1 活動経過報告

月 日	内 容
04/01	・焼津市V連絡協議会加盟
04/13	・第1回（4月）定例研究会開催 今年度の活動について協議（意見交換）
04/20	・焼津市V連絡協議会総会会員6名出席し、新規会員としての抱負を述べる
05/11	・第2回（5月）定例研究会開催 今年度の活動内容を協議 「居場所」議論中で、管内における既存の集まる団体・グループの把握活動に取り組むことを確認するとともに、活動の財源確保について、関係方面に情報収集をする
05/13	・裾野市千福が丘 山田茂幸氏との情報交換実施
05/18	・定例焼津市V連絡協議会代表者会議出席（以降、奇数月に開催出席する）
05/22	・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」申請書類取寄せ
05/28	・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」申請書提出
06/06	・焼津市社会福祉協議会との連絡調整
06/08	・第3回（6月）定例研究会開催 本事業の企画書に基づき、調査活動の具体化協議
06/27	・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」助成決定連絡あり
07/03	・焼津市社協に「赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」申請書提出
07/13	・第4回（7月）定例研究会開催 本事業の展開状況確認、調査票の回収問題議論
07/22	・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」交付式出席 ・焼津市社協より「赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」助成決定連絡あり
08/10	・第5回（8月）定例研究会開催 本事業開始と展開確認 関係地縁団体等への協力要請
09/14	・第6回（9月）定例研究会開催 引き続き本事業展開状況確認、調査票の回収問題議論 ・「焼津福祉文化共創研究会通信創刊号」発行し、本会事業の広報啓発に努める
10/19	・第7回（10月）定例研究会開催 引続き本事業展開状況確認、調査票の回収問題議論 ・「焼津福祉文化共創研究会通信第2号」発行 調査活動の動き掲載
10/27	・(株)セイコー社と協議 本事業の取り組みと成果物の作成に関する意見交換
10/28	・福祉コミュニティ関係者研修会開催 (自治会・町内会、民生委員、社協関係者等18名出席し、本事業中心に意見交換)
11/16	・第8回（11月）定例研究会開催 本事業の完成時期と今後の活用方法協議 ・「焼津福祉文化共創研究会通信第3号」発行 現地訪問受け入れ関連記事掲載
11/29	・本事業調査関係に関する第1回打ち合わせ会開催 調査シートとデータ入力方法検討
12/07	・本事業調査関係に関する第2回打ち合わせ会開催 調査票入力作業開始と検討事項協議
12/10	・「焼津福祉文化共創研究会通信第4号」発行 福祉文化実践活動の現状と協働活動掲載
12/15	・第9回（12月）定例研究会開催 調査の回収・校正作業のメド協議
12/28	・回収シート修正作業取りまとめ
01/02	・本事業調査関係に関する第3回打ち合わせ会開催 ページ仕立てと校正検討内容
01/05	・本事業調査関係に関する第4回打ち合わせ会開催 ページ仕立て再考（～1/15）
01/09	・成果物について、(株)セイコー社と協議 今後の事業展開と成果物の取り組み
01/11	・第10回（1月）定例研究会開催 ページ仕立て最終確認 ・「焼津福祉文化共創研究会通信第5号」発行 「紹介集」完成と今後の活用方法
01/15	・第3回(株)セイコー社と協議 正式発注に関する協議



01/18	・本事業調査関係に関する第5回打ち合わせ会開催 最終校正作業実施（～1/28）
01/28	（株）セイコー社に発注
02/05	・「報告集」納品 ・協力いただいた関係機関・団体・グループに「報告集」送付 ・本事業について、マスコミ各社及び焼津市広報課に情報提供実施
02/08	・第11回（2月）定例研究会開催 本事業検証と今後の継続的冊子活用協議
02/10	・焼津市社会福祉協議会に「事業実施報告書」提出 地縁団体等への協力お礼と連携要請 ・県コミュニティづくり推進協議会に、活動の展開状況報告 ・事業検証報告書作成に関する、印刷業者との協議（見積）
02/13	・「事業検証報告書」編集作業実施（～02/28） ・事業に関する関係団体等との連絡調整
02/15	・「事業検証報告書」に関する印刷業者との協議（具体的な今後の入稿に関して） ・「事業検証報告書」を入稿、校正作業
02/25	・自治会会議において、本事業の経過報告と今後の協力要請
03/02	・印刷業者との協議入稿
03/09	・「事業検証報告書」納品
03/10	・本事業に関する、次年度の展開に関する協議（役員会）
03/18	・港地区民生委員児童委員協議会にて、本事業経過報告と今後の活動について説明
03/20	・3月自治会会議にて、次年度の事業説明と協力依頼
03/28	・第12回（3月）定例研究会開催 本事業検証と令和2年度活動計画協議 ・県コミュニティづくり推進協議会に、「事業中間報告書」提出



## 2 2019 年度活動計画及び 2020 年度活動計画

### 2019 年度 焼津福祉文化共創研究会活動計画

#### 活動テーマ：港地域の“ご近所”を切り拓く

#### 「集まる居場所」で地域ぐるみのささえあいを検証する (地域の団体・グループ把握冊子・検証報告書作成)

### 1. 企画意図

過去には「居場所」という特化した福祉言葉などはなく、人々は、地域社会の中で自由に集まり、地域全体のコミュニケーション力で、お互いに日常的にささえあうことを当たり前のこととして生活を営んできた。

しかし、ここに来て、高齢者の孤立・孤独防止や、子育てに不安をもつ世代への支援、また、地域社会になかなか溶け込まない世代対象への支援等、多様な福祉ニーズが浮き彫りになり、その問題解決の取り組みとして、地域社会で真剣に、意図的な「居場所事業」が取り組まれる社会に一変しつつある。

このたび本会が取り組む事業は、こうした社会の大きな変化に対して、地域の福祉課題解決の一つとして取り上げられている「居場所」のこれまでとこれからを検証する。

約 5,000 世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」(第 14・23 自治会)管内で、「居場所」の原点である、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に組み込まれている各種活動団体やサークル・グループ等が「普段の拠り処」として、日常的・主体的に、「居場所機能」を持つ領域はどのくらいあるのか、その現状を把握し、これからの地域づくりに活かす。

併せて、新たな課題解決に向けて、意図的に組織化され、「居場所」活動に取り組まれている現状を検証する。そして、「港地域ぐるみの居場所」のこれからについて、住民主体に議論し合う地域社会づくりを提案する。

身近な地域において取り組まれている様々な居場所の存在を「見える化」することにより、中高年の閉じこもり社会を防ぎ、さらには、男性の地域参加を促し、地域の自立化として、「地域ぐるみの居場所」を、世代を超えて地域住民に情報提供し、積極的に仲間づくりをし、「ささえあう港地域づくり」を働きかける。

本事業は、最終的には、教育と福祉、とりわけ「学校教育」「社会教育」、行政や企業と市民、専門性と市民性、地縁団体と志縁等との『融合』『協働』による『地域ぐるみの支えあいネットワークづくり』につなぐ第一歩となることを期待する。

本事業は、単年度事業で終わらせることなく、継続的な取り組みを基に課題解決・改善に向けて取り組むこととする。

### 2. 実施主体 「焼津福祉文化共創研究会」

### 3. 事業の展開方法

- (1) 「焼津福祉文化共創研究会」定例会(毎月第 2 土曜日 19:00~21:00)における研究協議の場具体的把握方法研究協議、調査票作成研究作業、把握項目分析・考察協議、事業の進行管理
- (2) 管内関係機関・団体、実践者との協議(説明・報告)の場づくりの工夫
- (3) 管内団体、グループ訪問・聴き取り作業の取組み(予備聴き取り作業を含む)
- (4) 調査活動の取りまとめと資料化
- (5) 今後、取り組んだ成果を地域社会にフィードバックする学び合う場の工夫

#### 4. 具体的な展開

月	展 開 内 容	備 考
04月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回（4月）定例研究会開催 結成1年目の活動協議 （地域の課題整理作業）</li> <li>・「焼津市ボランティア連絡協議会」に加盟</li> </ul>	
05月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回（5月）定例研究会開催 今年度の活動内容を協議 「居場所」議論の中で、管内における既存の集まる団体・グループの 把握活動に取り組むことを確認するとともに、活動の財源確保につ いて、関係方面に情報収集をする</li> <li>・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」 申請書類取寄せ</li> <li>・県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」 申請書提出</li> </ul>	
06月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第3回定例会（事業内容検討協議）</li> <li>➢ 把握方法の具体化研究協議①</li> <li>➢ 助成事業申請手続き（6/28）</li> </ul>	
07月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第4回定例会（事業の具体的展開協議と関係方面との連携）</li> <li>➢ 把握方法の具体化研究協議② （フォーマット検討・性別・年代・募集有無・モットー・写真） （把握方法と分担）</li> </ul>	
08月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第5回定例会（関係機関・団体、グループ把握作業）</li> <li>➢ 関係方面との連絡調整（発足動機、現状、課題等）</li> <li>➢ 助成交付決定連絡（8月上旬）</li> </ul>	
09月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第6回定例会（状況把握と学習会企画）</li> <li>➢ 関係方面との連絡調整（引き続き発足動機、現状、課題等）</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第7回定例会（把握状況意見交換）</li> <li>➢ データ考察作業</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第8回定例会（把握状況意見交換）</li> <li>➢ データ考察作業</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第9回定例会（事業まとめ検討）</li> <li>➢ データ考察作業</li> </ul>	
01月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第10回定例会（事業の取りまとめ作業）</li> <li>➢ 資料冊子化の検討・把握結果考察印刷（コピー）作業</li> </ul>	
02月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第11回定例会（関係方面との連携・事業総括と継続化の検討）</li> <li>➢ 把握結果考察印刷資料化と冊子作成</li> <li>➢ 助成事業完了（2/7）</li> </ul>	
03月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第12回定例会（事業の継続化協議と2年目の本会活動計画確認）</li> <li>➢ 助成事業実施報告書提出（3/2 締切）</li> <li>➢ 関係機関・団体、グループへの協力お礼</li> </ul>	

#### 5. 本事業の財源について

- (1) 赤い羽根共同募金 地域福祉促進事業
- (2) 静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団助成事業」

#### 6. 本事業の問い合わせ先

- 〒425-0044 焼津市石津向町 15-17 デイビーズ百の木石津内 焼津福祉文化共創研究会事務局  
Tel. 054-623-3665 Fax. 054-656-3731
- 〒425-0041 焼津市石津 751-1 焼津福祉文化共創研究会 代表 平田 厚  
Tel. & Fax. 054-624-1924

# 2020年度 静岡福祉文化共創研究会活動計画（素案）

## 活動テーマ：港地域のご近所福祉を切り拓くパート2 ー協働による地域課題解決を探るー

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第14・23自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講。

この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民(14名)が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、2019年4月に「志縁団体」として、ここに「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生した。

住民主体で取り組んだ、尊い実践講座の3年間の取り組みの総括から、次の「10の地域課題」を浮き彫りにした。

- (1) 語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態のしくみづくり）
- (2) 「地縁組織」と「志縁組織」の融合による地域づくりの取り組み
- (3) 「専門性」と「市民性」の融合  
（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ）
- (4) 当事者組織化の支援
- (5) 具体的な地域の生活支援策の把握
- (6) 管内のささえあいの仕組みづくり
- (7) 総合的地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
- (8) 地域を「見える化」する広報啓発
- (9) 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10) ご近所福祉の復活

こうした、課題改善・解決に向けて、市民有志で結成した本会の初年度の活動テーマを「居場所」として、約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ領域（既存の各種団体・グループ）を、尊い「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」と「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」のご配慮により会員自ら把握する活動により取り組むことが出来た。

今年度は、取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」として働きかけ、本会の活動基調に基づき、活動テーマに取り組む。

### 1. 活動の着眼項目

- (1) 世代を超えて「地域課題」をもとに「地域総合型学習」の場づくりに心掛ける
- (2) 地域の話を持ち寄り、「学習化」し、地域社会に課題提起できるように心掛ける
- (3) 「地域課題の福祉化」に努め、専門性と市民性の融合を基に、課題解決改善に心掛ける
- (4) 「近助」の意義を深め合う議論に心掛ける
- (5) 地域のささえあいの仕組みづくりについて、関係機関・団体との「協働」の意義を深め合うとともに、実践活動のプロセス重視を心掛ける

◇努力点として（2020.1.11 議論要点）

- ①活動財源確保
- ②アドバイス・コーディネート資質の向上
- ③対等な議論（地縁と志縁、会員を広める、公開型議論）
- ④世代を超えた地域学習の提供
- ④継続的実践活動の展開

## 2. 役員会の開催

- (1) 実務型役員会構成を基に、[代表][副代表][事務局長・次長]等が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- (2) 定例研究会開催前に、「活動計画」に基づく運営について、協議の場を持つ。「子どもと福祉文化」を主要活動テーマに、様々な地域実践活動から「地方発福祉文化の創造」を研究協議する。

## 3. 定例研究会の開催

- (1) 毎月第2土曜日、19:00～21:00を原則定例開催日とする。(別添活動計画表参照)
- (2) 各種事業関連の研究会の開催は、定例研究会において、その趣旨を明確にして取り組む。

## 4. 事業関連部会設置と開催

- (1) 本会活動を円滑に展開するために、事業別部会を設置して運営することとする。
- (2) 初年度の取り組みから、今後活かす部会として「調査研究部会」「広報部会」「研修部会」を必要に応じて、参加型で取り組むこととする。
- (3) 具体的な取組みについては、参加型会員をもって協議をして取り組む。

## 5. 主な活動の取り組み

### (1) 調査研究事業

#### ① 「地域ぐるみの居場所」検証事業（継続助成事業）

- \* 2019年度実施の「検証事業」の継続的取り組みとして、55の団体・グループをさらに掘り下げ、項目白紙欄の補充等を含めて、管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組む。
- \* 「紹介集」の更なる充実と共に、管内の「居場所の意義」を推進する努力をする。

#### ② 「近助」に関する意識と実態調査事業（新規助成事業申請事業）

- \* 地域の実情把握による課題解決に向けた取組みを具体化していく目的で、本会の活動テーマ「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2ー協働による地域課題解決を探るー」を具体化する「近助」に関する住民の意識と実態を把握し、今後の地域づくりに活かす。「静岡福祉文化を考える会」との協働により、県域と管内との「地域性」の比較ができる取り組みを考える。

### (2) 研修事業

#### ① 公開型研修会として「地域ぐるみの居場所検証報告会」の開催（継続助成事業）

- \* 2019年度に取り組んだ「地域ぐるみの居場所検証事業」について、本事業に協力いただいた団体・グループ関係者、地区民生委員児童委員協議会、港地域づくり推進会、各自治会・町内会、一般市民を対象に、公開型研修会として開催する
- \* 各助成事業支援団体（県コミ推協・焼津市社協）、県及び市行政関係者の出席を要請する
- \* 本会会員の具体的な役割分担をもって実現につなげる  
（進行・プログラム参加・運営演出・資料作成・広報啓発）
- \* 前年度から準備に取り掛かり、5月の開催をめざす
- \* プログラムは、概ね2.5時間とし、  
00～10「開会」「アイスブレイク」

10分

10～ 30「事業経過報告」	20分
30～ 55「基調報告 —検証事業から見えたものは何か—」	25分
55～ 65 休憩	10分
65～ 95「団体・グループ紹介」協力いただいたグループから2団体発表	30分
95～150「円卓トーク」	55分

②地域をつなぐ協働研修会

\* 管内福祉施設連絡会との「地域支援」「生活支援」に関する協働研修会の開催

③現場実践研修会

\* 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を学び合う機会を持つ。

\* 地域コミュニティ組織または、福祉事業所・施設等における「近助」のあり方を議論しながら、地域ぐるみのささえあいと地域参加を議論し合う

④調査研究考察報告研修会

\* 調査研究事業として取り組んだ結果を報告し、啓発研修の機会とする

(3) 広報事業

①「焼津福祉文化共創研究会通信」の発行

②活動啓発事業

(4) 協働事業

①「管内福祉施設連絡会」との協働事業

②「静岡福祉文化を考える会」との協働事業

③「焼津市V連」との協働事業

④管内各種団体・グループとの協働事業

6. 関係・団体との連携

(1) 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会への情報提供・連携

(2) 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、「静岡福祉文化を考える会」及び「日本福祉文化学会」との情報共有

\* 各種事業の取り組みについての情報提供

\* 各種事業の実践発表の共有

(3) 関連機関・団体、大学・専門学校への情報提供

(4) 焼津市ボランティア連絡協議会との連携

\* 定期総会出席

\* 定期V連代表者会議出席と情報提供（通信配布）

(5) ふじのくに未来財団への情報提供

(6) 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供

(7) 管内福祉施設連絡会との連携と情報の共有

\* 通信配布

(8) 港地域づくり推進会への情報提供

(9) 「さわやか福祉財団」への情報提供

### 3. 「焼津福祉文化共創研究会」規約及び会員名簿

#### 焼津福祉文化共創研究会規約

#### 第1章 総則

第1条（名称）この会は、「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）と称します。

第2条（事務所）この会の事務所（連絡先）は「☎425-0044 焼津市石津向町15-17  
百の木デイサービス内（054-623-3665）」に置くこととします。

#### 第2章 目的・事業・活動基調

第3条（目的）この会は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。

第4条（事業）この会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業をおこないます。

- ① 情報交換活動
- ② 啓発・広報活動
- ③ 人的交流
- ④ 研究会・講演会・セミナーなどの開催
- ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第5条（活動基調）この会の活動は、つぎのような基調を守っていくこととします。

- ① 市民及びさまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- ② 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に拓かれた活動をめざします。
- ③ 既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

#### 第3章 会 員

第6条（会員の資格）この会の目的に賛同し協力をする個人。

原則として国籍・年齢・職業等を問いません。

第7条（入会）会員になろうとする人は、所定の申し込み用紙によって手続きをすることとします。

第8条（会費）会員は、規約により会費を納入しなければなりません。

2. 既納の会費は返済しません。

第9条（退会）会員は、いつでも役員会に通告し、退会することができます。

2. 会費を1年以上滞納した人は、役員会において退会したものとしてみなすことができます。

#### 第4章 機 関

第10条（役員）この会の役員は、代表1名、副代表2名、事務局長1名、事務局次長1名とします。（監事取る）

第11条（役員の選任）代表、副代表、事務局長、事務局次長は、会員の中から互選し、会員全体会の承認を受けます。

第12条（役員の任務）代表は、この会を代表して会務を総括します。

2. 副代表は代表を補佐し、代表に支障が生じた場合には、代表の職務を代行します。

3. 役員会は、事業・研究・広報・会計・事務局事務などの会務を執行します。

第 13 条（役員の補充）役員が任期の途中で退任した場合には、役員会で補欠を選任することができます。

第 14 条（会員全体会）代表は、年 1 回は、会員の全体会を招集しなければなりません。

2. 代表は、役員会が必要と認めたとき、または、会員の 3 分の 1 以上の請求があったときは、会員全体会を招集しなければなりません。

第 15 条（役員会）代表は、年 6 回程度、役員会を招集しなければなりません。

第 16 条（議 決）会員全体会の議事は、出席会員の過半数をもって決することとします。

## 第 5 章 会 計

第 17 条（経費）この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてます。

第 18 条（会費）この会の会費は、「社会人 年間 1,000 円」、「大学生以下年間 500 円」とし、原則として 1 回払いとします。

第 19 条（決算）この会の決算は、役員会の議決を経たあと、会員全体会の承認を得てこれを決定します。

第 20 条（会計年度）この会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり 3 月 3 1 日をもって終わるものとします。

## 第 6 章 規約の改正

第 21 条（規約改正）この規約の改正は、会員全体会において出席会員の 3 分の 2 以上の賛成をえなければなりません。

附 則 平成 3 1 年 4 月 1 3 日施行



## 焼津福祉文化共創研究会とは

本会は、さまざまな福祉・ボランティア活動や福祉職に携わる人と市民がいっしょに、地域が抱える生活全般のさまざまな問題を考えその改善のために努力していくことを目的とします。(本会規約抜粋)

### ◆「活動基調」

- (1)さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図ります。
- (2)会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざします。
- (3)既存の福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざします。

### ◆「活動内容」

- (1)情報交換活動
- (2)啓発・広報・調査研究活動
- (3)人的交流活動
- (4)研究会・講演会・セミナーなどの開催
- (5)その他、この会の目的を達成するために必要な活動

◆定例会研究会は、原則第2土曜日 19:00～21:00 地域密着型・施設の社会化をめざす、管内介護事業所を会場(事務局)として、理論と実践を融合し合う学びの環境を創ります。

◆年会費 1,000円

## 焼津福祉文化共創研究会 会員

平 田 厚 (代表)  
望 月 旬 子  
原 崎 幸 子  
望 月 隆 仁  
河 野 惠 介  
大 澤 雅 晴  
安 倍 孝 至  
平 山 和 子  
飯 嶋 諭 以 子  
橋 本 和 子  
橋 本 雄 介  
山 梨 恵 子  
渡 邊 徹  
原 崎 洋 一



事務局：  
〒425-0044 焼津市石津向町 15-17  
デイサービス百の木石津内  
Tel. : 054-623-3665 Fax. : 054-656-3731

# 若者発 ご近所福祉かるた 誕生の由来

- ・静岡県内在住の学生が、高齢者宅を訪問し、読み札を考案
- ・作画は、静岡県島田市在住の漫画家 法月 理栄氏の好意で実現
- ・赤い羽根共同募金の助成で100セット作成し、県内各所に配布
- ・地元優良企業の協力を得て拡大版を2セット製作
- ・静岡県内各地の教育機関や居場所・サロン・認知症カフェ等に無料で貸し出し、有効活用

発行年月日:2016年(平成28年)2月6日

企画 製作:静岡福祉文化を考える会

作 画:漫画家 法月 理栄氏(静岡県島田市在住)

協 力:共創社会実現研究会/若者発“居場所”あり方研究会/常葉大学 学生有志



Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ

**焼津福祉文化共創研究会通信**

焼津福祉文化共創研究会事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介

原崎幸子 平田厚

**尊い3年間のささえあい講座から得た10の課題を基に始動！  
「志縁団体」としての役割を果たしながら…**

本会は、この3年間（2016～2018年度）、港地域づくり推進会（港第14・23自治会）主催で、取り組んできた「港地域ささえあい講座」事業に携わった実行委員の有志等（現在会員13名）と、日頃から、熱い思いで、地域づくりに関わっている有志が、これからの地域づくりに、積極的に取り組む「志縁グループ」として、2019年4月に発足した。そして、2019年度に、焼津市ボランティア連絡協議会に23番目に加盟した。関係者によると、3年ぶりの新しいボランティア団体加入だという。

3年間の尊い実践的体験的事業「港地域ささえあい講座」から、10の地域課題を浮き彫りにすることができた。

- (1) 語れる地域環境の醸成の必要性（世代を超えた「地域総合型学習形態」の仕組づくり）
- (2) “地縁団体”と“志縁団体”の「融合」による地域づくりに取り組むことが求められている。
- (3) “専門性”と“市民性”の「協働」による地域づくりの努力
  - \* 管内13の介護事業所が、「福祉施設連絡会」を組織化した。今後は、地域でのネットワーク化と地域の介護力UPに取り組むことが求められる。
- (4) 当事者等の支援を探る
- (5) 「移動・買い物支援」、「世代間交流」、「声掛け合う地域づくり」、「居場所」等の生活支援を検討する
- (6) 管内のささえあいの仕組みづくり
- (7) 総合的地域支援組織の構築
- (8) 地域を「見える化」する取り組みの必要性
- (9) 制度施策を理解する地域福祉教育の推進
- (10) ご近所福祉の復活（日頃のささえあいの環境づくり）

これらの課題改善・解決に向けて、本会は、2019年度の活動計画を次のように掲げ始動した。

**港地域のご近所福祉を切り拓く「集まる居場所」で地域ぐるみのささえあいの検証事業**

過去には、「居場所」という特化した福祉言葉などはなく、人々は、地域社会の中で自由に集まり、地域全体のコミュニケーション力で、お互いに日常的にささえ合うことを当たり前のこととして生活を営んできた。高齢者の孤立・孤独防止や、子育てに不安を持つ世代への支援、また、地域社会になかなか溶け込めない世代対象への支援等、多様な福祉ニーズが浮き彫りになった。その問題解決の取り組みとして、意図的な「居場所事業」等が取り組まれる社会に一変しつつある。本会結成初年度の活動は、こうした社会の大きな変化に対して、地域の福祉課題解決の一つとして取り上げられている「居場所」のこれまでとこれからを検証し、「地域の家庭化」を目指した活動に取り組む。約5,000世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内で、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に取組まれている「居場所」の原点をもとに、各種活動団体やサークル・グループ等が普段暮らしの中の拠り所として、日常的・主体的に「居場所機能」を持つ領域の現状を把握し、これからの地域づくりに活かす。



## “ご近所福祉”を切り拓く ホットする、つながる・ささえあう「集まる居場所」をめざして 港地域の団体・グループ紹介集の作成に取り組む

このたび、静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団育成事業」と「焼津市共同募金地域福祉活動促進助成事業」により、「“ご近所福祉”を切り拓く ホットする、つながる・ささえあう「集まる居場所」をめざして 港地域の団体・グループ紹介集」の作成に取り組む。

地域で活動している既存の各種団体・グループの現状を把握（8～10月予定）し、その結果を『各種団体グループ紹介集』（2月上旬発行）として発行し、管内住民に紹介する事業に取り組む。管内地域住民が、趣味や特技を共有し、積極的に地域参加する機会を呼びかけ、さらには、新たな活動団体・グループや真の居場所の誕生につながることを期待し、更なるささえあう地域づくりへの支援活動に取り組む。

「港地域ぐるみの居場所」のこれからについて、住民主体で議論し合い、地域社会に提案する。身近な地域において取り組まれている様々な居場所の存在を“見える化”することにより、最近社会問題とされている、中高年の引きこもり社会を防ぐとともに、男性の地域参加を促し、「地域ぐるみの居場所」を、世代を超えて地域住民に情報提供し、積極的に仲間づくりをし、「ささえあう港地域づくり」を働き掛ける。

月	展 開 内 容	
06月	➢ 第3回定例会（事業内容検討協議）	➢ 把握方法の具体化研究協議①
07月	➢ 第4回定例会（事業内容検討協議） ➢ 把握方法の具体化研究協議②	➢ 管内関係方面への打診
08月	➢ 第5回定例会（関係機関・団体、グループ把握作業） ➢ 管内関係方面への打診（自治会・地区民協）	➢ 関係者を招いて学習会①（発足動機、現状、課題等）
09月	➢ 第6回定例会（状況把握） ➢ 研究会通信創刊号発行（今後月1回程度）	➢ 関係者を招いて学習会②（発足動機、現状、課題等）
10月	➢ 第7回定例会（把握状況意見交換）	➢ データ考察作業 研究会通信第2号
11月	➢ 第8回定例会（把握状況意見交換）	➢ データ考察作業 研究会通信第3号
12月	➢ 第9回定例会（事業まとめ）	➢ データ考察作業 研究会通信第4号
01月	➢ 第10回定例会（事業の取りまとめ作業） ➢ 関係機関・団体、グループを招いた報告会・意見交換	➢ 資料冊子化検討 研究会通信第5号 ➢ 把握結果考察印刷（コピー）作業
02月	➢ 第11回定例会（事業総括と継続化の検討） ➢ 把握結果考察印刷資料化と冊子作成の検討	➢ 関係者を招いて学習会③ ➢ 助成事業完了 研究会通信第6号
03月	➢ 第12回定例会（事業の継続化協議） ➢ 関係機関・団体、グループへの協力お礼	➢ 助成事業実施報告書提出 研究会通信第7号

### 事務局日誌拝見（4/1～9/14）

- |  |  |
|--|--|
| 04/01 ➢ 焼津福祉文化共創研究会発足  | 06/13 ➢ 「コミュニティ活動集団育成事業」決定                     |
| 04/13 ➢ 第1回定例会開催   | 06/21 ➢ 浦安市民協研修対応（@港公民館）                       |
| 04/20 ➢ 2019年度焼津市V連加盟・総会出席                                       | 07/03 ➢ 「コミュニティ活動集団育成事業」決定交付式出席（事業説明と書類提出指示あり） |
| 05/11 ➢ 第2回定例会開催   | 07/13 ➢ 第4回定例会開催                               |
| 05/16 ➢ 港中学校「認知症体験-タ-養成」講座開催                                     | 07/31 ➢ 「赤い羽根共同募金助成事業」決定                       |
| 05/23 ➢ 福祉施設連絡協議会発会式出席   | 08/10 ➢ 第5回定例会（調査開始）                           |
| 05/27 ➢ 県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団育成事業」申請、「赤い羽根共同募金地域福祉活動促進事業」申請 | 08/21 ➢ 港地区民協定例会出席                             |
| 06/08 ➢ 第3回定例会開催   | 08/25 ➢ 自治会会議出席                                |
|  | 09/14 ➢ 第6回定例会開催<br>➢ 研究会通信創刊号発行               |

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ

**焼津福祉文化共創研究会通信**

焼津福祉文化共創研究会事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介

原崎幸子 平田厚

## 結成から早や6か月 定例会出席率91% 地域課題解決議論に集中 先ずは、地域ぐるみの“居場所”把握

結成から、早や6か月が経過した。管内の地域課題を浮き彫りにしながら、議論を深めようと出発したが、より具体的な活動目標をもち、課題改善解決に向けて、地域に問題提起をしていく活動提案があり、これまで3年間取り組んできた「港地域ささえあい講座」から浮き彫りになった10の課題項目のうち、「居場所」をテーマにした。ただ、一般の住民に「居場所とは」と呼びかけても通じない側面があるとの議論から、過去には「居場所」という特化した福祉言葉などはなく、人々は、地域社会の中で自由に集まり、地域全体のコミュニケーション力で、お互いに日常的にささえあうことを当たり前のこととして生活を営んできた。

しかし、今日、ここにきて、高齢者の孤立・孤独防止や、子育てに不安をもつ世代への支援、また地域社会になかなか溶け込まない世代対象への支援等、多様な福祉ニーズが浮き彫りになり、その問題解決の取り組みとして、地域社会で真剣に、意図的な「居場所事業」が取り組まれる社会に一変している。このことに焦点をあてた取り組みとして、管内約5,000世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内で、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、自由に取組まれている各種活動団体やサークル・グループ等が普段の拠り処として、日常的・主体的に、「居場所機能」を持つ領域はどのくらいあるのか、その現状を把握し、これからの地域づくりに活かす活動に取り組むこととした。本来、「真の居場所は家庭」であるが、今日では、「地域を家庭化」しなければならない時代にもなっている。改めて、今回の活動を通じて、「居場所」とは何か、そして、新たな課題解決に向けて、意図的に組織化されている「居場所」の現状を検証し、「港地域ぐるみの居場所のこれまでとこれから」について、住民主体で議論し合うことを地域社会に提案する。身近な地域において取組まれている様々な居場所の存在を「見える化」することにより、最近、社会問題とされている、中高年の閉じこもり社会を防ぐとともに、男性の地域参加を促し、「地域ぐるみの居場所」を、世代を超えて地域住民に情報提供し、積極的に仲間づくりをし、「ささえあう港地域づくり」を働きかける。今回の活動は、「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により、「地域ぐるみの居場所検証報告書（地域のグループ・団体紹介集）」（仮称）として取りまとめる。現在、40か所把握。

### 9月定例会（9月14日）における、「聞き取り調査活動の取り組みに関する議論」の主な意見

- ✓ 本会の調査目的・活動内容・方向性を相手に明確に、わかり易く説明し理解していただくことから始まる。
- ✓ 今回の調査によって、コミュニティの原点を把握できる。
- ✓ 今後、地域住民が管内の様々な活動を共有し合い、つながる地域を期待したい。
- ✓ 調査の対象は、管内の在住者または就労地域を有している団体等を対象にする。
- ✓ 冊子化するに当たって、承諾をすること。単に、会員募集だけを目的にはしない。
- ✓ 本活動は、地域を掘り起こす役割がある。
- ✓ “集める居場所”から“集まる居場所”の発想で取り組む。
- ✓ 回答いただいた団体等は、出来る限り紹介するとともに、得た回答からデータ化し、考察につなぐ。



## 【研究会発足後の動き】

### 1. 焼津市ボランティア連絡協議会加盟

- 奇数月開催のV代表者会議に出席し焼津市内のボランティア活動状況を把握
- 焼津市ふれあい広場（福祉まつり）への協力（献品等）
- 「広報やいづ10月号」のボランティア団体紹介特集に本会紹介あり
- 令和元年度静岡県ボランティア研究集会（2月@島田市）への参加

### 2. 管内福祉施設連絡会との連絡調整

- 施設の地域化アンケートデータの考察
- コミュニティ組織との関係アンケート結果の公表時期
- 研究会、自治会組織との連携について
- 百の木デイサービス（事務局）による現場研修の場提供



### 3. 自治会組織との協働

### 4. 学校教育と福祉教育の融合

### 5. 関係機関・団体との連携



## 事務局日誌拝見（9月14日～10月14日）

- 2019/09/14 ➢ 2019年9月役員会&第6回研究会開催（出席率100%）  
➢ 「焼津福祉文化共創研究会通信創刊号」発行
- 2019/09/15 ➢ 焼津市役所広報課へ本会会員集合写真PCメール送信  
➢ 焼津市役所広報課、焼津市社協との連絡調整  
➢ 「調査聞き取り活動」伴う「調査票」配布・協力呼び掛け
- 2019/09/17 ➢ 10月28日県コミュニティづくり推進協議会「活動集団現地訪問」出席者確認  
渡邊様、大澤様、安倍様、望月隆仁様、望月句子様、橋本和子様、原崎幸子様、平田計8名
- 2019/09/18 ➢ 助成団体の県コミ推協、焼津市社協等に「焼津福祉文化共創研究会通信創刊号」「第6回研究会レジメ」送付し、活動状況経過報告実施「第6回研究会議事録」仕上げ（河野）
- 2019/09/19 ➢ 焼津市社協と、10月28日現地訪問協議に関する連絡調整実施（当日の出席確認）  
➢ 福祉施設連絡会事務局との連絡調整
- 2019/09/20 ➢ 焼津市V連代表者会議出席（望月隆仁氏）
- 2019/09/25 ➢ 望月隆仁氏より、焼津市V連代表者会議の報告あり  
➢ 会員に、焼津市ふれあい広場の献品呼び掛け
- 2019/10/01 ➢ 焼津市ふれあい広場の献品協力状況（3点）  
➢ 「広報やいづ10月号」に市内23のボランティア団体紹介掲載  
➢ 河野氏、伊藤氏、県コミ推協等に広報誌送付（港公民館提供）
- 2019/10/03 ➢ 焼津市ふれあい広場の献品締切10月16日で周知
- 2019/10/04 ➢ 10月定例会開催再確認（10月19日開催） ➢ 百の木デイサービス「秋祭り」案内  
➢ 港公民館との連絡調整（プロジェクター借用） ➢ 調査票回収努力呼びかけ  
➢ 県コミ推協に、研究会活動状況報告と10月28日現地訪問計画確認
- 2019/10/05 ➢ 10月28日県コミ推協・現地訪問対応のPowerPoint作成作業（河野）  
➢ 10月研究会レジメ、10月28日現地訪問関連資料作成作業
- 2019/10/09 ➢ 調査票シート回収状況確認と資料化の検討（関係者意見交換）
- 2019/10/16 ➢ 焼津市ふれあい広場の献品提出
- 2019/10/19 ➢ 2019年10月（第7回）役員会&研究会開催
- 2019/10/24 ➢ 関係助成団体等との連絡調整
- 2019/10/28 ➢ 静岡県コミュニティづくり推進協議会「コミュニティ活動集団現地訪問」

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ

**焼津福祉文化共創研究会通信**

焼津福祉文化共創研究会事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介

原崎幸子 平田厚

**2019年度 県コミ推協主催「コミュニティ活動集団助成事業現地訪問関係者研修会」開催  
行政・社協・自治会・市民との協働活動を探る**

本会は、静岡県コミュニティづくり推進協議会の「コミュニティ活動集団育成事業」の指定（2019年度と2020年度の2年間助成決定）を受けた。この事業は、人々が協力し合って住み良い地域をつくるために活動する集団（コミュニティ活動集団）に対して指定し、活動に必要な経費の一部を助成することにより、地域の先導的役割を担う活動集団の育成支援として実施されている。原則として、中学校区の範囲を超えない範囲の団体を対象とする。今年度は、県内で16の団体が助成決定。助成期間は2年間。

本事業の活動の留意点としては、「課題を明確にし、会員の周知のほか、運営組織をつくり、常に話し合いをしながら、計画を立てて活動を展開すること」「課題が地域全体に理解される様な資料ミニコミ紙等を発行するなど、地域全体に活動のPRを心掛けること」「管内の各種団体等との情報交換や連携を深めること」「地域のあらゆる課題に対して、創意工夫をして、地域の実情に合った活動に取り組むこと」「会員からは会費を徴収して、自己財源に努めること」が挙げられている。

本助成事業に取り組むに当たっては、当該地区の機関・団体の推薦を得て、協力が得られるように努力することとなっている。今回は、焼津市社会福祉協議会の全面的な支援のもとに取り組んでいる。助成1年目の団体に対して、主催者及び推進専門委員による現地訪問と指導助言を受けることとなり、このたび、10月28日（月）に北川原公会堂を会場に、「関係者研修会」として開催した。当日は、主催者の常務理事兼事務局局長（瀧昌光様）、推進専門委員（望月誠一郎様）、静岡県地域振興課（大石剛平様）、本会会員8名（渡邊会員、大澤会員、安倍孝至会員、原崎幸子会員、橋本和子会員、望月句子会員、望月隆仁会員、平田会員）をはじめ、推進団体の焼津市社会福祉協議会（高松課長、神谷係長）、関連団体として、焼津市港第14自治会会長（嶋芳正様）、第1町内会長（石田敏広様）、第2町内会長（小池進様）、第12町内会長（日比野克未様）、民生委員児童委員（河内三郎様）の18名が出席されて、主には、「焼津福祉文化共創研究会」の(1)本会誕生の経緯、(2)今年度の活動計画、(3)具体的な活動の取り組み、(4)今年度のまとめと今後について（①福祉施設連絡会との連携、②報告書作成、③地縁と志縁の融合、④次年度調査結果の共有、⑤学習の深化/外部からの研修要請対応等をPowerPointにより説明し、意見交換では、広く「コミュニティ活動のあり方」を共有する機会とした。望月誠一郎専門委員からは、「将来を見通した活動の継続性」「声を掛け合う地域づくり」「小さな地域活動でも取り組む地域住民の意識改革の必要性」等の講評をいただいた。



## 港地域の「ご近所福祉」を切り拓く ホットする、つながる・ささえあう「集まる居場所」を 港地域の団体・グループ紹介集作成に向けて全力投球中

本会結成初年度の活動は、約 5,000 世帯をもって組織化された「港地域づくり推進会」(第 14・23 自治会)管内で、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処として、自由に、日常的・主体的に、「居場所的機能」を持つ領域はどのくらいあるか、地域で活動している既存の各種団体・グループの現状を把握し、管内住民に紹介し、趣味や特技を共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、さらに、新たな活動団体・グループの誕生を期待し「紹介集」を作成する。こうした取り組みを通して、今日、社会の大きな変化の中で、地域の福祉課題解決の一つとして取り上げられている「居場所」の原点をもとに、これからの地域づくりに向けた「真の居場所づくり」に活かす。

### 【主な内容】

➤	はじめに 港地域の団体・グループ紹介集の発行にあたって	1 頁
➤	目次	1 頁
➤	第 1 章 港地域の団体・グループ把握のプロセス	2 頁
➤	第 2 章 わたしたち港地域の各種団体・グループを紹介します	63 頁
	※ 調査シートをまとめる	
➤	第 3 章 調査活動から見えたものは何か	5 頁
	※ 調査データ分析・考察	
	※ 研究会懇談会(会員からひと言)	
➤	第 4 章 資料編	8 頁
	(1) 経過記録	
	(2) 事業計画・冊子企画書・調査票	
	(3) 焼津福祉文化共創研究会規約・会員名簿	
	(4) 研究会通信	

【2月完成をめざして、取り組み中.】

## 事務局日誌拝見 (10月19日～11月16日)

- 2019/10/19 ➤ 2019年10月役員会及び「第7回研究会」開催  
➤ 百の木デイサービス「秋祭り」開催
- 2019/10/20 ➤ 焼津市社協「ふれあい広場」に、望月会員、山梨会員係として参加  
✓ バザー献品 22点提供
- 2019/10/24 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会の「現地訪問受け入れ」に関して、関係者出席呼び掛け努力(19名出席確認)  
➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会との連絡調整
- 2019/10/25 ➤ 港公民館及び石津コミュニティセンターに資材借用作業(望月会員)  
➤ 原崎洋一会員とデータ集計作業に関する連絡調整
- 2019/10/26 ➤ 冊子作成企画書再検討と、現在までの「調査票」回収状況一覧表作成作業実施  
➤ 「現地訪問受け入れ」に関して、マスコミ 15社 FAX 入れ  
➤ 「現地訪問受け入れ」当日追加資料作成
- 2019/10/27 ➤ 「現地訪問受け入れ」当日 PPT データトラブル有、早急に河野会員に対応求める
- 2019/10/28 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会の「現地訪問受け入れ」関係者研修会開催  
(13:30～16:00, @北川原公会堂, 出席者 18名)
- 2019/10/29 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会の「現地訪問受け入れ」関係者研修会の出席者へ事後対応(お礼)
- 2019/10/30 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会との連絡調整(お礼・意見交換)
- 2019/10/31 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.3」編集作業
- 2019/11/02 ➤ 「冊子作成企画書」の具体化検討(意見交換)
- 2019/11/12 ➤ 「調査票」回収状況確認作業
- 2019/11/14 ➤ 「調査票」データ入力作業検討
- 2019/11/16 ➤ 2019年11月(第8回)焼津福祉文化共創研究会開催



<p>Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ</p> <h2 style="text-align: center;">焼津福祉文化共創研究会通信</h2>	<p style="text-align: center;">焼津福祉文化共創研究会事務局 〒425-0044 焼津市石津向町 15-17 百の木デイサービス石津内 Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731 編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介 原崎幸子 平田厚</p>
---	---

### 思い切って、第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会にチャレンジ! 「ご近所」「福祉施設の社会化」「協働社会」「ニーズ把握」を実践発表

このたび、「第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会&第1回中部東海ブロック大会」が、中部東海ブロック（愛知県，静岡県，三重県，岐阜県，長野県）管内の愛知県名古屋市の中京大学名古屋キャンパスで約200名の参加のもと盛大に開催された。静岡県では、「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会－大会テーマ：富士山麓いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進－」を17年前の2002年に裾野市で開催した経緯がある。本会会員4名は、この実行委員会の委員として、2月19日に準備委員会、3月、4月6月、8月と5回の実行委員会に精力的に参画し、大会当日の運営に関わり視野を広めた。

大会テーマは、「名古屋発“福祉文化元年”を築く～今こそ、人を育てる，アートを創る～」。平成時代の幕引きとともに、新元号“令和”の下、住民主体の地域社会再構築の必要性から、新しい福祉文化の風を吹き込む意味で、「福祉文化元年」と位置付けた。主な日程は下記の通り。

**【1日目】11月30日（土） 【会場】中京大学名古屋キャンパス0号館（センタービル）6F**

	11:30	13:00	13:40	15:00	16:10	16:30	18:00	20:00
受付	開会セレモニー		記念講演 (湯浅景元氏)	シンポジウム	休憩	交流分科会 (企画①～⑤)	懇親会	
	ロビー企画展							

**【2日目】12月01日（日） 【会場】中京大学名古屋キャンパス0号館（センタービル）6F**

	8:30	9:00	9:50	10:20	11:50	12:50	14:00	14:30	16:30
受付	学会 総会	移動・ 休憩	研究発表 ワークショップ	昼食休憩 ランチコンサート お弁当販売	市民公開講 座（宗次徳 二氏）	閉会 セレモニー 福祉文化実践賞 授賞式	現場セミナー (1～5コース)		

「静岡福祉文化を考える会」及び「焼津福祉文化共創研究会」会員として、これまでの実践活動「地方発 福祉文化の創造」を検証すべく、次の3つの「実践発表」をした。

- 「子どもを育む地域づくり その意識と実態検証プロセス」 発表者：河野 恵介
- 「専門性と市民性の融合による地域のネットワークを探る」 発表者：望月 隆仁
- 「地域包括ケアシステムへの理解と共感に向けての一取り組み――」

“若者発 ご近所福祉かるた”で地域づくりを!! 発表者：望月 句子

また、「全体シンポジウム－福祉の原点を探る～3つの実践例を通して－」では、静岡県内の高齢者実践事例を「静岡発 福祉文化の創造で“ご近所福祉”を拓く」を主題に語った。



●焼津福祉文化共創研究会協力事業（港第14自治会第12町内会歳末たすけあい助成事業）  
**北川原”つながる・ささえあうご近所さん！”**

「みんな。みんなおいで！クリスマス&お正月を創る集い」とは

区画整理事業により、第12町内会は、新興住宅地域化し、なんと、この1年間で15世帯が北川原地域のご近所さんになり、126世帯となっている。（因みに、高齢化率約19%の地域）

これから、ますます新旧混住地域住民同士の交流を深めあうことが求められる時代を迎えている。世代を超えて（0歳～長寿世代）、地域の絆をより強め、お互いに顔と顔が見え、日頃から、会話の絶えないご近所さんのふれあい交流ができ、災害にも強い地域づくりをめざして取り組む。併せて「子どもを育む 地域づくり」について、本研究会の地域課題として実践検証する。

- 開催日時 2019（令和元）年12月22日（日）13:00～16:30
- 開催会場 焼津市石津北川原公会堂とその周辺
- 共 催 子ども会，新和会
- 協 力 静岡福祉文化を考える会，焼津福祉文化共創研究会，管内福祉施設連絡会
- 主なプログラム
  - 13:00 「楽しい楽しいクリスマス&お正月」みんなで創ろう  
 ももちゃんず（デイサービス百の木与惣次職員）といっしょに  
 ◇手あそびゲームや楽しい歌でみんながふれあう ◇福祉小話
  - 14:20 「正月を遊ぶーみんながはまっちゃー コマまわしー」誰が生徒か先生か？  
 じーじ・ばーば・おとうさん・おかあさん，それとも子どもが先生！
  - 15:30 楽しい楽しいクリスマスを創っちゃおう（折り紙・クラフト）
  - 16:20 全員で「ハイ!!ポーズ」（記念写真）サンタさん元気でまたあいましょう（閉会）

**事務局日誌拝見（11月16日～12月15日）**

- 2019/11/16 ➤ 2019年11月（第8回）焼津福祉文化共創研究会開催  
 ➤ 原崎洋一氏にデータ入力依頼  
 ➤ 第9回定例研究会を12月15日（日）に変更連絡
- 2019/11/17 ➤ 港第14自治会第12町内会の歳末たすけあい募金 地域福祉助成事業「北川原 つながる  
 ささえあうご近所さんーみんな みんなおいで！ クリスマス&お正月を創る集いー」への「協力」要請あり 高齢者問題の地域課題だけではなく、幅広く関わる機会をつくることを確認する この事業へは、本会の橋本和子さんが創作プログラムに、また、デイサービス百の木石津（望月隆仁さん）には、福祉小話のプログラムに関わることになっている。こうした面からも、本会会員が自由に参画出来る環境にもなっている。
- 2019/11/23 ➤ 調査データ入力作業について、原崎洋一氏と連絡をとり、12月定例研究会前に打ち合わせを確認する。
- 2019/11/25 ➤ 港第14自治会広報誌第17号に本会の発足について掲載される。
- 2019/11/27 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会に、本会の活動状況を報告する。
- 2019/11/30 ➤ 第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会（愛知県名古屋市・中京大学名古屋キャンパス）において、「静岡福祉文化を考える会」として、3つの実践発表（望月句子さん，望月隆仁さん，河野恵介さん）をする。
- 2019/12/04 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会の会議において、本会を現地訪問された望月専門委員と意見交換をする。
- 2019/12/05 ➤ 第9回定例研究会の関連資料作成作業実施  
 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.4」作成作業実施
- 2019/12/07 ➤ 調査データ入力に関する打ち合わせ会開催
- 2019/12/15 ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会との連絡調整  
 ➤ 2019年12月（第9回）焼津福祉文化共創研究会開催

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ

# 焼津福祉文化共創研究会通信

焼津福祉文化共創研究会事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月句子 河野恵介

原崎幸子 平田厚

## ●「子どもを育む地域づくり事業」(港第14自治会第12町内会)に協力 北川原”つながる・ささえあうご近所さん! 0歳から91歳まで123名参加 「みんな、みんなおいで!クリスマス&お正月を創る集い」でふれあい交流

2019年12月22日(日)、焼津市石津北川原公会堂において、「“北川原”つながる・ささえあうご近所さん!みんな、みんなおいで!クリスマス&お正月を創る集い」が開催された。

この事業は、港第14自治会第12町内会が、焼津市歳末助け合い募金助成事業として取り組まれたが、本会は、協力団体として当日会員が運営に関わった。この地域は、区画整理事業により、新興住宅地域化し、なんと、この1年間で16世帯が北川原地域のご近所さんになり、127世帯となり、高齢化率約19%の地域。

これから、ますます新旧混住地域住民同士の交流を深めあうことが求められる時代を迎えている。

世代を超えて、0歳から91歳まで123名参加。地域の絆をより強め、お互いに顔と顔が見え、日頃から、会話の絶えないご近所さんのふれあい交流ができ、災害にも強い地域づくりをめざして取り組まれた。

本会では、「子どもを育む 地域づくり」の地域課題をもとに、当日のプログラムでは、「福祉小話」や「伝承あそび-コマ回し-」「創作-折り紙-」で参加した子どもたちとのふれあい交流をもとに、楽しいひと時を過ごした。地縁(町内会)団体だけでは、今日的課題解決のための地域行事の実現は、容易ではない。今回も、志縁団体として、「子ども会」「新和会」「静岡福祉文化を考える会」「管内福祉施設連絡会」そして「焼津福祉文化共創研究会」が事業を盛り上げた。

### ■ 主なプログラム

- 13:00 「楽しい楽しいクリスマス&お正月」みんなで創ろう  
ももちゃんず(デイサービス百の木と惣次職員)といっしょに  
◇手あそびゲームや楽しい歌でみんながふれあう ◇福祉小話
- 14:20 「正月を遊ぶ-みんながはまっちゃう コマまわし-」誰が生徒か先生か?  
じーじ・ばーば・おとうさん・おかあさん、それとも子どもが先生!
- 15:30 楽しい楽しいクリスマスを創っちゃおう(折り紙・クラフト)
- 16:20 全員で「ハイ!!ポーズ」(記念写真)サンタさん元気でまたあいましょう(閉会)



## 港地域のご近所を切り拓く ホットとする支え合う地域をめざして

### 「港地域の団体・グループ紹介集」は、62団体・グループの協力のもと制作中

本会は、7月に「焼津市赤い羽根共同募金助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会コミュニティ活動集団助成事業」として、管内（港第14・第23自治会）において、住民が、自主的、自発的に「寄り処」として、住民相互のふれあい交流している団体グループの現状を把握し、これからの地域の「真の居場所」を検証する目的で、活動を展開している。

すでに、5か月を経過し、12月に入り、約62団体・グループの協力をいただき「港地域の団体・グループ紹介集」の編集作業に入った。

主なページ仕立ては、「第1章 港地域の団体・グループ把握のプロセス」「第2章 団体紹介」「第3章 状況把握活動から見えたものはないか」「第4章 資料編」等である。

12月までの定例研究会における議論では、「潜在的団体・グループをいかに掘り起こしていくか」「できるだけ、丁寧に聞き取りをしていきながら、状況把握をしていく」「領域は、多岐にまたがっていることが浮き彫りになっている」「新旧がわからない 古すぎてわからない団体もある」「インフォーマルサービスを知ってもらう機会にする」「今後、地縁団体との研修会に活かせる成果物としたい」等が出された。



## 事務局日誌拝見（12月15日～1月11日）

- 2019/12/15 ➤ 2019年12月（第9回）焼津福祉文化共創研究会&忘年会開催
- 県コミュニティづくり推進協議会に、現在までの事業の取組み状況概要報告実施
- 2019/12/16 ➤ 「冊子報告書」加筆・追加校正作業実施（～1月10日）
- 2019/12/17 ➤ 提出シート確認作業
- 各会員に、一連の報告書配布及び引き続き「冊子報告書」作成協力呼び掛け
- 2019/12/18 ➤ 焼津市社協に、現在までの事業取組み状況報告
- 2019/12/19 ➤ 「冊子報告書」の表紙及び裏表紙等の作成作業実施
- 2019/12/20 ➤ 「第10回定例研究会」関連資料作成作業開始
- 「研究会通信第5号」発行企画検討編集作業に取り組む（子ども支援のあり方テーマ）
- 今後の活動について連絡調整 冊子報告書関連資料作成作業実施
- 2019/12/22 ➤ 「第10回定例研究会」関連資料仕上げ
- 2019/12/22 ➤ 港第14自治会第12町内会歳末助成事業協力
- 2019/12/27 ➤ 「研究会通信No.5」編集作業開始
- 県コミュニティづくり推進協議会及び焼津市社協に、現在までの事業進捗状況報告
- 2019/12/28 ➤ 「冊子報告書」各担当者のシート加筆、修正等校正作業完了し、シート提出締切日
- 2019/12/29 ➤ 回収シート及び写真等点検作業
- 2020/01/05 ➤ 「冊子報告書」ページ仕立て点検 表紙等原稿確認
- 印刷業者との協議
- 2020年度活動の方向性検討
- 2020/01/08 ➤ 「冊子報告書」に関する連絡調整
- 2020/01/09 ➤ 「冊子報告書」の印刷への意向確認
- 2020/01/11 ➤ 2020年1月（第10回）焼津福祉文化共創研究会開催

Life・Culture &amp; Welfare 地域から発信福祉を文化へ

# 焼津福祉文化共創研究会通 信

焼津福祉文化共創研究会事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 望月旬子 河野恵介

原崎幸子 平田厚

## 赤い羽根共同募金地域福祉活動促進事業 本会結成、はじめての実践活動で、55の団体・グループの協力のもと 港地域の“ご近所”を切り拓く「団体・グループ紹介集」完成!!

『“港地域はひとつ”をめざして、「集まる居場所」を検証する』をもとに、本会の初年度の活動として取り組んできた「港地域の団体・グループ紹介集」がこのほど出来上がり、2月8日に開催した定例研究会において、全会員出席のもと、本会結成して、初めての福祉文化実践活動を振り返りながら、意見を出し合った。

はじめて取組んだ活動の経緯は、3年間の「港地域ささえあい講座」にある。この講座から浮き彫りになった「居場所」議論を発展させて、約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（港第14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ領域（既存の各種団体・グループ）はどのくらいあるかを、会員自ら把握する活動として取り組んだ。赤い羽根共同募金地域福祉活動促進事業の助成申請の結果、受理され活動を具体化した。結成2年目は、さらなる把握に努め、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができるように働きかけていこうとする試みが本事業の根底にある。住民主体の新たな活動団体・グループの誕生の期待とともに、「地域ぐるみ居場所」の原点を探り、「真の居場所づくり」に活かせることを願っている。



### 【3月上旬完成をめざす「港地域の集まる居場所検証報告書」】

引き続き、本会では、今回の「団体・グループ紹介集」から把握した、項目を分析・考察した「検証報告書」（A4版・80頁）を「県コミュニティ活動集団助成事業」（静岡県コミュニティづくり推進協議会）により、作成に取っかかっている。主な章立ては、

- 第1章 港地域の団体・グループ把握のプロセス
  - 「3年間の「港地域ささえあい講座」からの提言」「焼津福祉文化共創研究会の誕生」
  - 「集める居場所が叫ばれている今、集まる居場所」とは「港地域の集まる居場所」の把握
- 第2章 港地域の団体・グループを紹介します
  - 「55の団体・グループから協力をいただきました」「各団体・グループの聞き取りシートの見方」「港地域の団体・グループを紹介します」
- 第3章 港地域の55の団体・グループ把握から見たもの
  - 「聞き取りシートデータのデータ分析と考察」「研究会議論から【これからの地域活動への提言】」
- 第4章 資料編

## 2020年度 本会の活動テーマは 港地域のご近所福祉を切り拓く Part 2【協働による地域課題を探る】

2019年度の活動を引き継ぎ、さらに「真の居場所」の把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報を提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」として働きかけ、本会の活動基調に基づき、活動テーマに取り組む。

### ■ 活動の着眼項目

- (1) 世代を超えて「地域課題」をもとに「地域総合型学習」の場づくりに心掛ける
- (2) 地域の問題を持ち寄り、「学習化」し、地域社会に課題提起できるように心掛ける
- (3) 「地域課題の福祉化」に努め、専門性と市民性の融合を基に、課題解決改善に心掛ける
- (4) 「近助」の意義を深め合う議論に心掛ける
- (5) 地域のささえあいの仕組みづくりについて、関係機関・団体との「協働」の意義を深め合うとともに、実践活動のプロセス重視を心掛ける

### ■ 主な活動の取り組み

- (1) 調査研究事業
  - ①. 「地域ぐるみの居場所」検証事業（継続助成事業）
  - ②. 「近助」に関する意識と実態調査事業（新規助成事業申請事業）
- (2) 研修事業
  - ①. 公開型研修会/地域ぐるみの居場所検証報告会」の開催（継続助成事業）
  - ②. 地域をつなぐ協働研修会
  - ③. 現場実践研修会
- (3) 広報事業 「焼津福祉文化共創研究会通信」の発行
- (4) 協働事業 各種機関・団体・グループ等との情報の共有化に努める

## 事務局日誌拝見（1月11日～2月18日）

- 2020/01/11 ➤ 2020年1月（第10回）定例研究会開催
- 2020/01/12 ➤ さわか福社財団へ「居場所ガイドブック」70冊寄贈依頼  
➤ 「港地域の団体・グループ紹介集」の編集作業つづく 印刷会社との協議
- 2020/01/15 ➤ 冊子配布計画作成 印刷会社との協議  
➤ 引き続き、調査シート未記入団体・グループについて問い合わせ実施  
➤ 焼津市社協、県コミ推協に、現在までの事業の取組み状況概要報告実施
- 2020/01/18 ➤ 2020年1月（第10回）研究会議事録まとめ、1月焼津市V連代表者会議出席  
➤ 1月12日依頼の「居場所ガイドブック（70部）」届き、財団にお礼連絡実施
- 2020/01/22 ➤ 調査部会にて報告書編集協議
- 2020/01/23 ➤ 事務局連絡調整（会計現状について確認）  
➤ 第14自治会、地区民協に、冊子作成作業の現状報告と共に、今後報告の機会申し出  
➤ 調査部会にて報告書編集協議（入稿確認）
- 2020/01/28 ➤ 印刷会社との協議（入稿）、夕方に印刷会社より、冊子95部納品
- 2020/02/08 ➤ 2020年2月（第11回）定例会開催 焼津市社協への事業実施報告書作成作業実施  
➤ 焼津福祉文化共創研究会通信 No.6 編集作業実施
- 2020/02/10 ➤ 焼津市社会福祉協議会へ「事業実施報告書」提出  
➤ 県コミュニティづくり推進協議会へ助成事業の進捗状況報告  
➤ 県コミュニティづくり推進協議会助成事業「検証報告書」作成印刷業者と協議
- 2020/02/13 ➤ 焼津市社会福祉協議会主催「助成事業説明会」出席
- 2020/02/16 ➤ 関係方面への研究会通信 No.6 送付作業準備 関係方面との連絡調整
- 2020/02/18 ➤ 焼津福祉文化共創研究会通信 No.6 発行 配布





港地域の“ご近所福祉”を切り拓く  
ホッとする、つながる・ささえあう「集まる居場所」をめざして  
**検 証 報 告 書**

発 行：焼津福祉文化共創研究会

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

デイサービス百の木石津内 焼津福祉文化共創研究会事務局

Tel. 054-623-3665 Fax. 054-656-3731

発 行：2020年3月10日

発行所：大日三協株式会社 〒420-0922 静岡市葵区流通センター12-1

- この事業は、2019年度「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団事業」及び「赤い羽根共同募金地域福祉活動促進事業」の助成を受けて実施しました。